

# 令和5年度 協働のまちづくり活動支援事業公開プレゼンテーション

<事業内容・質疑応答>

## 1. 特定非営利活動法人つながり



### 【事業名】 ママの夜会

#### ◆ 事業内容概要

- ・仕事終わりの夕食に合わせて、料理上手な地域のパパ等をお願いして食事を準備、参加した子どもたちにも手伝ってもらう。
- ・ママたちは料理を食べながら集ってもらい、子どもは食事後、大学生に遊んでもらう。
- ・親子で楽しく繋がりを作ってもらう。

#### 【背景】

##### 《最初のきっかけ》

私の住んでいるところは、6年前に農地を宅地造成して、22家族が移り住んできた場所。新しい家が22棟たっていて、その他の周りの家は昔から住んでいる家。住んで何年かたったが挨拶するぐらいでつながりは薄く、胆振東部地震の時も近所の状況が見えず、お互い声掛け合うこともなく、寂しい感じであったこと

##### 《転換～第2のきっかけ～》

子どもが生まれたことで、それまでは子どもが苦手で、苦手というよりどう接していいか分からなかったが、子どもが生まれてから、自分の子どもだけでなく、純粋な心を持つ子どもたちを見ていると、み

んなかわいく見えてきた。この子たちのために何かできないかというふうを考えるようになった。

子どもたちが幸せになるためにはどうしたらいいか考え、最終的にたどり着いたのが、子どもが幸せになるためには、大人が、特にお母さんが幸せそうに見える家族は子どもも幸せになるというふうを考えるようになった。その時に、2人目が生まれて育休中の妻がいつも話していたことが、今は育休中だから、子どもへの活動や地域の集いの場に参加できるが、仕事が始まれば参加できない。妻は結構いろんな活動に参加して、いろんなつながりを作っていたが、逆にこういう発言が聞かれて、フルタイムで働くお母さんって、平日は仕事で、土日は残った家事や家族との時間で、職場以外のコミュニティはなかなか作れる機会がない。その後、縁があり、豊平にある共生型ホーム「ねっこぼこの家」に、仕事の関係で研修に行ったところ、18時から20時の間で働くお母さんも集える地域食堂を夜に開催しており、他にはこのような場はあまり聞かないということだった。

お母さんが気軽に話ができる仲間ができれば、気持ちに余裕も生まれ、子どもにも優しく接することができる。ひとりではなく、みんなで助け合うためにもコミュニティが必要。働くお母さんの居場所を作り、少しでも親同士が信頼関係を築き、仲良くなれば、子どもも幸せになるのではないかと。今、家族だけで子育てをしている。もっとみんなで助け合えれば、助け合う意識が芽生えていけば、もっと幸せになる。そして、自分だけじゃなくて、みんなで幸せになる方法をみんなで考えられるのではないかと。一人じゃない地域、みんなで子育てできる環境、子どもたちが幸せに過ごすためにということで、まずは働くお母さんの集いの場を作りたいと思った。

#### 【NPO法人の立ち上げに至るまで】

3年前一度チャレンジしており、市役所や道社協、いろんなところに協力の依頼をかけて、いろいろ相談してまわったが、結局、コロナウイルスの影響により中止にした。長くなってしまうので、今回は割愛する。その後は近所との顔の見える関係づくりを優先し、この3年間活動してきた。いろいろな地域の活動に加えて、範囲を広げておうちパン講座とか、子どもと共に歩むパパ講座、ママ講座とかもやるようになり。ご近所同士のつながり作り、地域で子育てする環境のきっかけづくりはできたと感じ、昨年より近所だけでなく範囲を広げた活動を開始した。そこで、補助金などをうまく利用しながら、活動の拡大化を検討する段階になったため、令和4年4月3日にNPO法人化を行った。そして、働くお母さんの集いの場、2度目のチャレンジである。

#### 【ママの夜会(2度目のチャレンジ)について】

ママの夜会についてだが、働くお母さんの集いの場を作ろうと動いた時期につながった。当時、本日はいらっしゃるが、北翔大学の先生だった岩本先生が扇町商店街に集いの場を立ち上げたことから、その場所をお借りできれば、コロナ前から考えていた働くお母さんでも参加できる場が作れるのではないかとという相談をしたところ、快く貸してもらうことになった。参加想定はママとその子ども、子どもはおんくりの家で活動する学生、ボランティアさんにも協力してもらって遊んでもらう予定にしている。参加されるママたちにはゆっくり交流してもらいたく、料理はいろんなつながりがあるので、得意なパパにお願いして準備したいなど思っている。料理は、参加される子どもたちにも手伝ってもらいながら食事を提供したいなども考えている。

## 《周知について》

周知に関しては、チラシを作成し、班回覧やSNSで周知していきたいと思っている。近隣の子ども園にも掲示をお願いする。原則事前申し込みで10家族程度を想定して、会を開催していきたいと思っている。会費は子どもが多い世帯でも参加しやすいように1家族500円というところにし、そこはこだわった。平日は余裕なく、土日は家族での時間を優先したい働くママでも参加できる金曜日の夜に行いたいと思っている。初回は7月21日、時間は18時半から20時半の予定で、令和5年度は7月、10月、1月の合計3回行おうと思っている。

## 《予算について》

予算について、合計が108,100円、申込額は72,000円としている。予算内訳について、食費については、今年4月に行ったパパの料理教室で8家族プラス講師の分の花しゅうまいと切り干し大根のサラダ、れんこんのきんぴらを作った際の材料費が18,461円であった。この時、9家族分の料理を用意したため、単純計算で10家族来たという想定で考えると2万円プラス。お米代も加えると、多めに見積もって25,000円程度と考えた。

## 《課題》

来年度以降のママの夜会については、やはり食費がネックになってくるので、食材提供してもらえる農家さんとか企業にも協力依頼を検討していきたいと思っている。働くママの居場所づくりが継続して必要であると考えているが、開催日時とか内容についてはやりながら参加したママに聞き、修正していければと考えている。

終わりに、1人でも多くのママたちが笑顔になれば、その子どもたちも笑顔になり、周りにも良い影響を与えていくと考えている。親同士が助け合う背中を見せていくことで、子どもが親になった時、きっと同じように助け合ってきてくれると信じている。子どもたちの未来を想像しながら、働くママの集いの場である、ママの夜会を開催したいと思う。

## ◆ 質疑応答

### 選考委員からの感想と質問①

今回、働くママたちのためのコミュニティの場づくりということで、夜の集まりということ提案されたのは、大変観点がいいと感心した。

予算の部分で、算出の根拠は出していただき、以前の料理のレシートから算出されたということだが、ただ、この部分の全体に占める割合が大変多いように感じる。食べるのがメインとなるのではと疑問に思ったところ。

今回、定款も拝見させていただいたが、人とのつながりを通じて明るい未来を創造できる社会づくりとあるが、例えばこの会の中でどのようにコミュニケーションをとってつながりを作っていくのかとか、どのように過ごしていくのか、ただ食べるだけではなく、その過ごし方、つながりを作る方法などを考えておられるのであれば、教えていただきたい。

### 発表者の回答

まずは、実際には夕食の時間になるので、働くママは、そのまま家に帰らずに来てもらい、大変なところを私たちが補っていききたいというところでの食事提供になっており、その金額が中心にどうしても

なってしまうことをご理解いただければと思う。

あとは、つながり作りとしては、親も子ども同士もつながってもらいたいと思っていて、そこが一番の趣旨である。子どもに関しては、料理を一緒にやりながら、学生さんに一緒に遊んでもらいながら、子ども同士のつながりも作っていただければなど思っている。親同士に関しては、私もそうだが、いろいろなサポートをしてくれる仲間がおり、副理事長も福祉の仕事をしている職員でもあるので、中に入って、参加者をコーディネートしながらやっていければと思っている。

#### 選考委員からの感想と質問②

働くお母さんの集いの場を平日の夜に設けたことは大変いい発想だと思う。今回の申請対象はこのママの夜会。これだけに絞っているが、昨年の実績を見ると非常に幅広い活動をされている。これに対しても敬意を表する。

このいい企画を継続するために、来年以降どうするのか。先ほど説明にもあったが、継続するには、食材の提供、買うにも限度があると思う。全部自家購入すれば参加費も非常に上がり、参加人数にも当然制限が加えられるということになるので、継続するために、どこか企業とタイアップして、定期的提供いただけるような動きは、今後どのように考えられているのか。

#### 発表者の回答

説明でも少しお話ししましたが、やはり食事の食材部分が今後ネックになってくるので、知り合い伝いにいろいろな農家さんを紹介してもらったり、企業もこの3年動いてきたことで、いろいろな人とのつながりが私も生まれてきたので、私たちに協力してもらえる企業を足で稼いで、来年度に向けてこの1年準備していきたいと思っている。具体的にどうするかは、とりあえず始めながら調整していければなど思っている。

#### 選考委員からの感想と質問③-1

コロナで一緒に物を食べるとかマスクを取って関わり合う機会が極端に減っている中で、このような場を地域の中で新たに作ることの必要性というのはすごくよく伝わってきて、そういう場の求めている方々がなんとかこのまちづくりの事業をきっかけにして広げていきたいという意欲が感じられるプレゼン内容であった。

##### 質問1-1

ただ、先ほどの質問、発表の中にこの3年間、いろんなことをしたであるとか、自治会であるとか、社協であるとか、いろんなところと相談させていただきながら、いろいろ準備はしたと書いてあったが、基本的にはご近所同士のつながりだと思うので、自治会とのつながりを考えられないのか。

##### 質問1-2

従来は地縁のつながりとして、自治会ベースでやってきた取り組みであったと思うので、その辺りはどのようにお考えなのか。

##### 質問2-1

江別市のこれからのいろいろなまちづくりの先進的な事例となっていけばいいと思うが、一部の団体が食べ飲みするための補助というのは難しいと思うので、その辺りの考え方や見通しをお聞きしたい。

## 質問2-2

役員が7人、会員8人のNPOで、予定している参加は10家族、チラシは大体3回想定で、1回につき100枚と思うが、配った結果、10家族以上来たら断るのか、参加者を広げていく人数の見通しであるとか、広がりに対しての対応をどのように考えているのか。

### 発表者の回答

#### ・質問1について

自治会の件は、前回、自治会にも協力依頼をさせていただいて話は進めたが、その時は私、動き出したばかりで、いろんな信頼がなかったため、正直、私がどういう人間かも分からない。自治会に協力していただき、西地区センターを場所にし、自治会としてできれば補助金ももらえ、場所も無料で貸してもらえるかもしれないが、信頼の面もあり、まずはやってみてから、その後に、もしかしたらお手伝いができるかもしれないという返答をいただいたことがあり、その後、私は青少年育成部長としてその年から現在も関わらせてもらっているが、自治会は町内会費でやっており、その町内会費を皆さんの承諾を得ながら利用するのはハードルが高く時間がかかることなので、まずは、今回は法人として活動を始めていく中で、いろいろ協力してもらえればやっていきたいとは思っている。

#### ・質問2について

今後の活動の幅の広げ方は、まずはどれくらい来てもらえるか分からないので、10家族想定で、料理を作ったり、何かをするには限界と踏んでいて、やってみて余裕があればもうちょっと増やせればなと思っているが、原則10家族で、それ以上はダメというわけではないので、その辺は調整していきながら、ニーズがあれば他の場所でもと考えている。

### 選考委員からの感想と質問③-2

この10家族に役員とか会員の家族は入ってないか。

### 発表者の回答

仕事している会員が多いので、2人か3人だと思う。この職員に協力してもらいながら行っていく。

## 2. NPO団体おんくりの輪



### 【事業名】 拡がれ！おんくりフードドライブの輪

#### ◆ 事業内容概要

住民や企業等によりまだ安全に食べられる食品を募り、必要な住民に手渡す。可能な限りおんくりの家でお茶を飲むなど交流の機会も設ける。

#### 【おんくりの輪について】

当団体は、昨年12月から活動を開始し、住民同士の支え合いを醸成し、住み続けたいまちづくり、住み続けられるまちづくりに取り組んでいきたいという思いから、さまざまなことに活動に取り組んでいこうと活動している。

具体的には地域の居場所の開放、多世代向けイベントの企画開催。ここまではすでに実施しているもので、今後の予定としては、子ども食堂、地域食堂、フードドライブ、フードパントリーフードバンク、支え合いの活動、様々な研修会や交流会などを予定している。

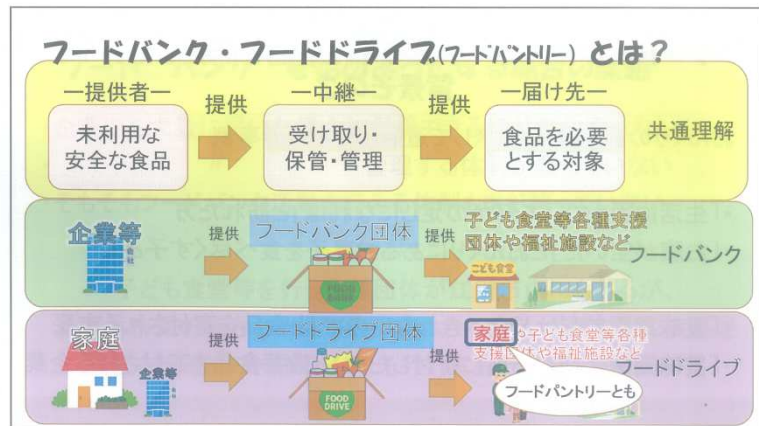
地域の居場所の開放については、大麻扇町商店街の空き店舗をお借りし、おんくりの家という名前で、12月にオープンをした。このおんくりの家は、誰でも気軽に立ち寄って、おしゃべりしたり、遊んだり、互いに認め合い、支え合い、育ち合う、そんな地域の居場所を目指している。

おんくりというのは恩送りに由来しており、人から受けた優しさを他の人に送る恩送りの輪が広がって、優しい社会になりますようにと、そんな願いを込めており、その中に、フードバンクやフードドライブなどの活動をしたいということが1つ挙げられる。

## 【フードドライブについて】

フードバンクやフードドライブ、最近話題になることも増え、ご存知の方もいらっしゃるかとは思いますが、提供者が受け取り、保管、管理をする中継先である団体にまず提供し、食品を必要とする対象に届けるというのがフードバンクやフードドライブ、フードパントリーを含む共通の理解かと思う。とりわけ企業から特に大量の未利用の食品等をフードバンク団体等に提供し、それを子ども食堂など各種支援団体や福祉施設などに提供する活動を取りわけフードバンクというふうと呼んでいるというように理解をしている。

これが、提供者に家庭が含まれ、企業から一部提供されることもあるが、家庭を含み、フードドライブなどを行う団体が中継をし、更に届け先にも家庭を含む一部子ども食堂などの団体や福祉施設もあるが、この提供者にも届け先にも家庭を含む場合にフードドライブと区別していると調べた。とりわけ、この家庭に対して直接届けるあるいは家庭から直接取り



に来るといふところはさらに細かくフードパントリーというふうに分けているという説明もあり、さまざまな見解が今あって、なかなかきれいに区別された定義というものがまだないという印象。

## 【フードドライブの活動を開始したいと思った背景】

### ◎背景1

前の子ども食堂、地域食堂活動を私が他の団体で経験をしたことにあるが、おおよそ30人前後、小学校低学年以下の子どもや親御さんが多数でしたが参加されていた。それがコロナ禍になり、食品配布やお弁当の無料配布に切り替えたが、世代問わずおよそ100人程度の方が列を作った。

### ◎背景2

おんくりの家を開始して間もなくして遭遇した数々の事例である。

#### 《事例1》

生活に困っていて、何かの足しになればと訪れた方がおり、おんくりの家のオープンした時に、フードバンクなどにも取り組んでいきたいということを書いていただいた新聞記事を見ていらっしゃるのですが、この時はまだその機能を持っておらず、何もお渡しすることができず、お話を聞いてお帰りいただいた。

#### 《事例2》

おんくりでは籠にお菓子を入れて自由に食べて良いとあちこちにお菓子を置いているが、お腹がすいたとおんくりにあるお菓子を全部食べた子どもがいた。この子の家庭の事情までは分からないが、そこまで緊急性があるようではなく、この1回のことかと思うが、そういったことが実態としてあった。

提供側の事例では、賞味期限前だけれども、食べきれないので食品を寄付される市民の方や、賞味期限が切れる前に寄付をしたいと備蓄食品を寄付される企業の方がいらっしゃるなど、さまざまな食に関する提供というところのニーズ、需要があると考えている。

### ◎背景3

フードロス、SDGSの話題が広がってからは、フードロスに関しては特に認知が広がっているのかと思う。さらに、物価高騰や、アルバイトに時間を費やして学業がおろそかになる大学生の存在もわかっており、人から人へ食品を手渡すことで人とのつながりも感じられるのではないかという仮説も立てている。

#### 【課題】

フードバンクを始めようとする場合の課題として、企業から大量に届いた場合に保管できるほどの倉庫やそれを管理する体制が当団体では整っておらず、市内には子ども食堂などを行う各種団体もあるが、まずは、市民の皆さん一人一人の協力により、必要な方に食品を手渡す活動であるフードドライブを行い、意識と認識を広げていきたいと思っている。これを江別市全体に知ってもらうため、本事業の申請をさせていただいた。

まずはイベント的に開催をすることで参加のハードルを低くしたいと思っており、徐々に体制を整え、日常的に受付や提供の機能を持っていきたいと思っている。このフードドライブイベント開催時のポイントとしては、おんくりカフェを同時に開催し、ふらっと立ち寄れる場所とそこにいる人を知ってもらい、フードドライブ開催時以外にも立ち寄るきっかけを作っていきたいと思っている。

#### 【おんくりフードドライブ活動周知の実施効果】

日々の食費に負担感を覚えている方に少しでも経済的な安心感を提供できるのではないかと。未利用食品が有効に消費されることで、食品ロスの削減につながるのと同時に、市民の皆さんの意識づけのきっかけになるのではないかと。地域の居場所があることが認識され、ふらっと立ち寄る人が増え、住民同士のつながりが醸成されるのではないかとこのように考えている。

そして、このフードドライブの場を広げるために必要なことは、とにかく広報なのではないかと思っており、新聞記事や広報誌に掲載いただくことも検討しているが、開催日程を全て記載したインパクトあるチラシを江別市民全体に届けたいと思っており、そう考えたときに、まんまる新聞の折り込みチラシに入れていただくことが最強だと仮説を立てており、こちらにご依頼したいと思っている。

#### 【開催予定について】

7月下旬、9月下旬、12月中旬から下旬のそれぞれ5日間程度ごとに開催をしていきたいと思っている。対象を限定するものではないが、子どもの長期休暇前を想定している。9月開催を1つ入れているのは、深い意味はなく、7月と12月の間を取って入れている。

#### 【予算について】

収支予算について、収入についてのその他は、各種活動日に寄付箱を置いており、大体ひと月1,500円ぐらい集まる現状から半年で9,000円と換算。支出はほとんどが広報費で、食品を手渡す際の袋や、フードドライブ開催時のカフェ用の紙コップで一部消耗品費として計上させていただいている。チラシは江別市内全てをまんまる新聞にお願いをすると51,383部ということで、手配り部分も含



めて、51,500部を印刷製本費とさせていただいている。

## ◆ 質疑応答

### 選考委員からの感想と質問①

人から人へ食品を手渡しするという事で、昔ながらの本来の地域でのつながり、お裾分けとか、そういった文化をきちっと振り返るような補助精神がある、とてもいい事業だなと思った。また、個人的にも、行き先がなくなり廃棄せざるを得なくなった食品を、誰かの手元に届くという仕組みがあるということは、とても提供する側も満足できると思う。

#### 質問1

個人の家から提供されることについて、リスクマネジメントの面でお伺いしたい。まず、食品であるということで、消費期限とか、衛生面、例えば袋に傷があるのかとか、そういったことについてどのように考えていらっしゃるのか。

#### 質問2

もう1つ、想定外のものが集まった場合はどのように考えていらっしゃるのか、その2点について教えていただければと思う。

### 発表者の回答

#### ・質問1について

リスクマネジメントの観点は非常に重要なことだと思っており、特に賞味期限に関する考え方が本当に人それぞれだと日々感じているのだが、多くの広く市民の方の手に届くということを考えたときに、賞味期限前というところにこだわって募集をしたいと思っている。

例えば、「これ開封済みだけど食べられるから」みたいに持っていらっしゃる方とか、あと、「家庭菜園のもので」と持ってきてくださる方も、今も現状いらっしゃるが、基本的には1度受け取りはしたいというふうには思っている。

保険は、イベントごとにボランティアの行事用保険に加入しようと思っていることと、子ども食堂保険にこれから加入しようと思っており、食中毒等にも対応ができるものと確認をしているので、そちらでカバーができると考えている。

#### ・質問2について

ただ、何でも受け取ってしまうと言い方は悪いが、何でも受け取ってもらえるところとなってしまうと、それを届けるときに、おんくりから食品を受け取る方の信頼を得られなくなってしまうので、そのあたりは、提供される方に、受け取るときに、「こちらで処理をさせていただく場合もあります。」ということはお断りした上で、安全なものや団体の中で判断できたものをお渡しをしたいと思っている。

### 選考委員からの感想と質問②

家庭環境は非常に厳しい中、あるいはますます厳しくなっていく中で、非常に良いことだという部分では、大変有意義な活動として感心申し上げる。

### ・質問1

今回の支援を得るに当たり、いろいろな条件があり、その中で、協働のまちづくりに寄与するのという事になっているが、これに関してどのように関連付けされているのか、その点をお聞きしたい。

### ・質問2

プレゼンテーションを聞き、開催予定日が7月、9月、12月の3回、それぞれ5日間程度となっているが、これは具体的には、例えば7月であれば5日間連続して行うのか、あるいは7月中に5回に分けて行うのか、連続して行う場合には提供の食材等が切れた場合2日で打ち切るとかになるのか、開催予定の具体的な内容を教えてください。

## 発表者の回答

### ・質問1について

協働のまちづくりとの関連の質問ですが、まさにただ捨ててしまう運命だったこれまでの食品を必要としている方に、市民の方が匿名でありながらも届けるということで、支え合いという言葉に近いが、誰かのことを考えて共に、暮らしやすい環境や街を作っていくという意味で、この活動をするのが、協働のまちづくりにつながっていくのではないかなと考えている。

### ・質問2について

開催日の5日間という質問に関しては、今のところ連続した5日間と考えている。その根拠としては、先ほどの賞味期限の日程の問題等もあり、できる限りこの5日間までに消費ができるものを渡し、差し支えないものという集め方をして、5日間でお配りをするというふうに考えている。

## 選考委員からの感想と質問③

事業として立ち上がったばかりで本当にこれからで、この間、見えてきた課題を実際の活動の具体的な内容につなげられており、これから期待される活動だと思い、今後ますます頑張りたいと思いつながりながら伺っていた。

### ・質問1

フードバンクは何となくイメージできるが、フードドライブが私はイメージできていない。

その日開催しますというふうにこれだけ広く周知し、その日に食べ物をたくさん持ってこられる方と、それをいただきに来る方とをマッチングするっていうイメージなのか。それとも、その日に向けて都合の良いときに食べ物を持ってきて、それを団体に整理しておくのか。

### ・質問2

来られる方の数が把握できないとか、具体的な流れのイメージが湧かなかったのも、もう少し具体的なやり方、運営の仕方というか、その辺りを教えていただくと、人の流れとかも少しはイメージできるので、これだけたくさんのチラシを刷ってまんまる新聞で配り周知し、その結果としてどのように人の流れ、運営を想定されているのか、もう少し説明してほしい。

## 発表者の回答

具体的な運営方法については、まだ検討の余地を残しているところではあるが、今想定しているものとしては、原則的には、その5日間に必ず持ってこなくても良いと思っており、開催する5日間という

のは提供をベースにしており、そこに向けて受付をする、ただあまり前もって受付をするとそれまでに賞味期限が切れてしまうということがあるので、受け付け開始の日程を設定したと思っている。

ただドライブという言葉の意味は、その場で運営をしていくと、もらうものと渡すものをその場で同時に回していくという意味のドライブだと調べた。持ってくる方がその5日間にいても良いし、その持ってきた方がまたもらっていてもいいと思うところもあり、決定した説明が出来ないが、想定は5日間は配るといこと、その5日間に向けて集めるということ。ただ、中にはその5日間に持ってくるという方もいらっしゃるということ。持ってきたものをすぐ目の前にいる方に渡せるかということ、先ほどの安全面のところもあるので、1度チェックを経たものをお渡しするということは外さずに考えている。

#### 来場者からのコメント①

去年の12月の開催状況を見て、思った以上に随分人が集まっているなという印象で、主催者には聞こえてないかもしれないが、扇町商店街の人たちの意識がかなり変わっていて、このようなこともあるのだと分かった。ぜひ続けていただきたいと思っている。

#### 来場者からのコメント②

まんまる新聞のチラシは各世帯に配布され確かに最強ですが、これを有効に活用するにしても何度も使えないと思うので、自分たちの発するメディア、つまりネットで拡散するような連携、このチラシと熱の連携をよく考えた作り方とか、ネットには無料でウェブサイトを作れるサービスもいくつかありますので、あとマップ、車、自転車で行く場合、それからバスでいく場合、詳しくわかりやすい地図もつけてもらえばいいかと思う。

#### ◆ 選考委員からの総評



左から、新田委員(札幌学院大学人文学部人間科学科 准教授)  
村瀬委員(江別市自治会連絡協議会 会長)  
栗田委員(特定非営利活動法人エコ・モビリティ サッポロ 理事長)

### ○新田委員

とても励まされる思いで伺っていた。本当にこの間、いろいろなつながりが分断される状況がしばらく続いていたので、その中で必要性を感じて立ち上がった方々のお話を聞き、本当に私としても力づけられた。あと、たまたまであるが、両団体とも、食べるということにつながっていて面白いなど思ったのと、食べるということを通して、他の事だとあまりつながってこない方にも振り向いてもらえるのではないか。私が住んでいる札幌の町内会も、何もしないと全然誰も出てこないが、ジンギスカンパーティーやると言う、こんなにあつたのかというぐらい人が出てきたということがある。何かそこを通してつながりを作っていくのであれば、こういうのは食の街江別にもふさわしいのかなとも思いながら伺っていたので、ぜひ実行に向けて頑張っていたいただきたいと思う。

### ○村瀬委員

どちらの団体も今の社会情勢にあった発想だと思う、逆に出来たきっかけがそういったことかもしれないが、有意義な活動であり、これからも期待したいと思う。今日のプレゼンテーションの他にも、昨年の活動実績だとかをいろいろ見ると、今日の発表以外にも多くの活動をされており、影に見えない形でいろいろな団体がそれに刺激を受けて私たちもやってみよう、それが、1つの商店街であったり、他の団体の組みであったり、個人の方も、広がりが生まれているのではないかと考えている。これからの活躍を期待する。

### ○栗田委員

分かりやすい説明で、書類だけではなくプレゼンで皆さんの想いを受け取ることができた。どちらの団体も地域とのつながりをすごく大切に思っていて、食品を通じて一緒に食べながらつながり、本当に地域の中でこのようにつながりを求めている人たちが声を上げていなくても、地道に機会を提供していくということがとても大事だなと感じている。どちらかというスタートアップ的な2つの団体だと思うので、継続できるように応援したいと思う。